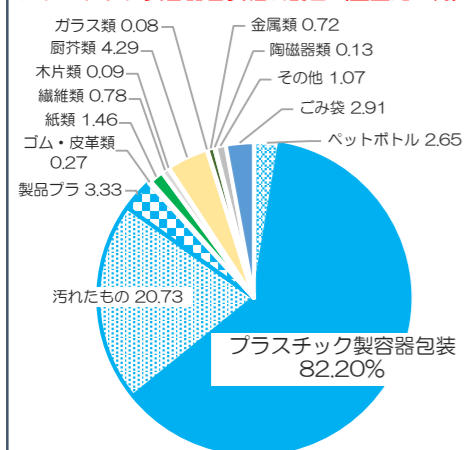


家庭系ごみ排出実態調査の結果

【調査期間：令和元年（2019年）10月16日～11月7日】

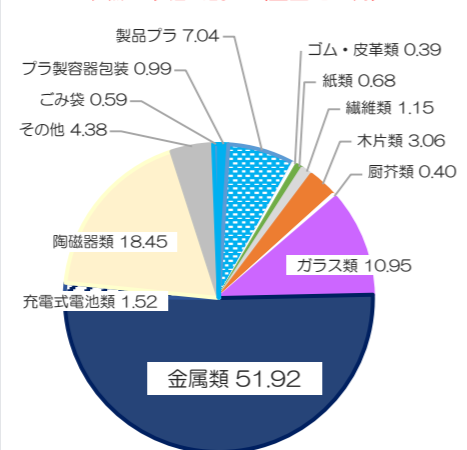


プラスチック製容器包装組成割合（重量比：％）



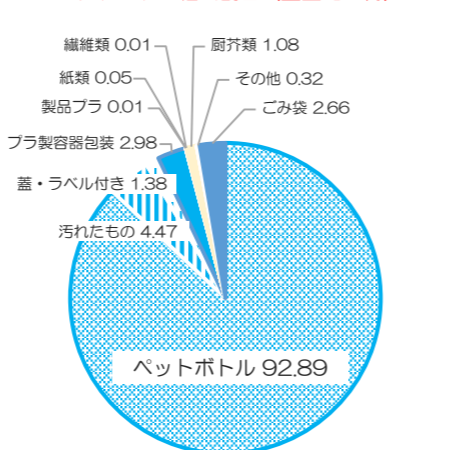
○組成概要
プラスチック製容器包装は82.20%を占め、そのうち汚れの激しいものが約21%でした。また、ごみ袋を除く14.89%が異物であり、厨芥類や製品プラスチック、ペットボトルなどが混入しています。

不燃ごみ組成割合（重量比：％）



○組成概要
小型家電や鍋等の金属類が51.92%と半分を占め、その中には、収集・処理工程における爆発・火災事故の原因とされる充電式電池が約2%混入しています。次いで、陶磁器類18.45%、ガラス類10.95%、プラスチック類が8.62%を占めています。

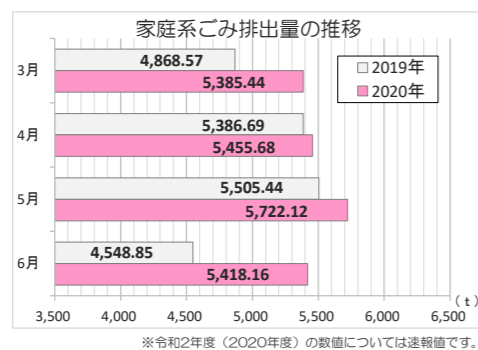
ペットボトル組成割合（重量比：％）



○組成概要
ペットボトルが92.89%と大半を占め、高い協働率が保たれていますが、そのうち汚れたものが4.47%、蓋・ラベル付きが1.38%含まれています。それ以外には、プラボトル等のプラスチック製容器包装が2.98%、厨芥類も1.08%混入しています。

コロナ禍により家庭系ごみ排出量が増加!?

新型コロナウイルス感染拡大防止の外出自粛により、家庭から排出されるごみの量が増加しています。これは、家の片づけやテイクアウト商品の利用増加によるものと考えられます。一方、店舗など事業所から排出されるごみの量は、約9.5%減少しています。



『とよなか環境TV』YouTubeで配信中

動画を活用して環境に関する情報をより幅広い世代に効果的に発信するため、動画共有サイトYouTubeにアカウント「とよなか環境TV」を開設しました。同アカウントでは、ごみの分別・出し方の解説、海洋プラスチックごみや食品ロスの問題、地球温暖化防止に向けた省エネなどの本市の取組み、公園遊具の使い方など、環境に関するさまざまなテーマ動画を配信しています。



げん ハッピー(8%)ごみ減量プラン (第4次豊中市ごみ減量計画)



令和元年度 (2019年度) 事業等報告書 速報版

ハッピー(8%)ごみ減量プラン事業等報告書速報版は、当プランの年度ごとの進捗状況を速報版としてまとめたもので、ごみの状況をみなさまにわかりやすく紹介するとともに、ごみ減量施策の進捗状況に対し、みなさまからご意見をいただき、今後の事業展開に活かすことを目的としています。

【ハッピー(8%)ごみ減量プラン(第4次豊中市ごみ減量計画)の概要】

○計画期間
平成30年度(2018年)から令和9年度(2027年)

- 基本理念は**
 - 協働で取り組む循環型社会の構築
- 基本施策は**
 - 廃棄物の減量に向けた発生抑制・再使用と質の高いリサイクル(再生利用)の推進
 - 廃棄物の適正処理の推進
- 優先的な取り組み内容は**
 - 食品ロス削減に向けた取組み
 - 発生抑制・再使用の推進
 - 再生資源集団回収の推進
 - ごみ減量に向けた情報提供
 - 多量排出事業者におけるごみ減量の促進
 - 搬入物調査の活用

【ハッピー(8%)ごみ減量プラン(第4次豊中市ごみ減量計画)の減量目標】

減量目標

ごみの焼却処理量を令和9年度(2027年度)には
平成28年度(2016年度)実績より **8% 削減**

平成28年度(2016年度)
約104千t / 年

令和9年度(2027年度)
約95千t / 年

個別目標

家庭系ごみ1人1日当たり量(再生資源除く)

平成28年度(2016年度)
約414g / 人 / 日

約28g 削減

令和9年度(2027年度)
約386g / 人 / 日

事業系ごみ量(再生資源除く)

平成28年度(2016年度)
約43千t / 年

約5千t 削減

令和9年度(2027年度)
約38千t / 年

リサイクル率

平成28年度(2016年度)
約15.7%

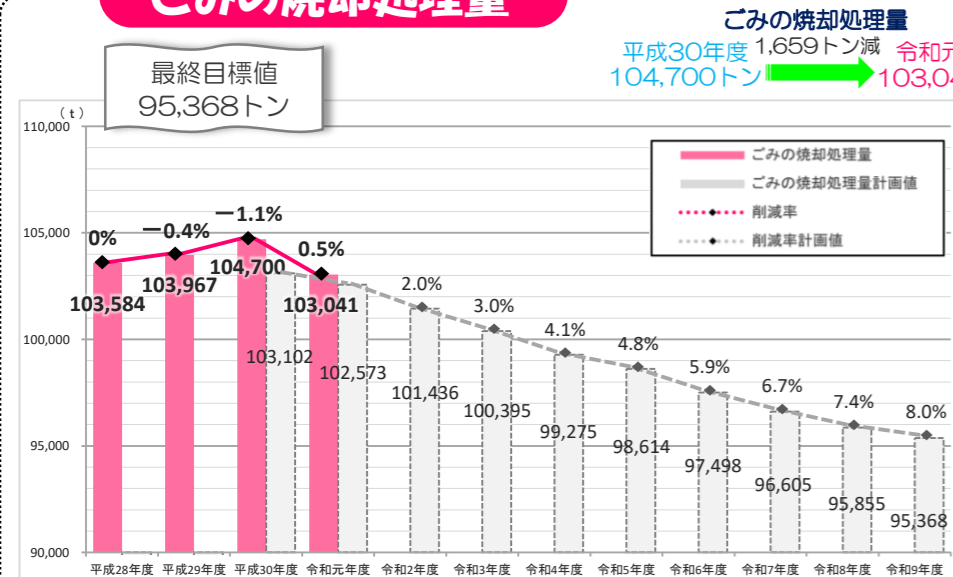
約3.6% 増加

令和9年度(2027年度)
約19.3%



令和元年度(2019年度)のごみ減量の進捗状況

ごみの焼却処理量



要因分析

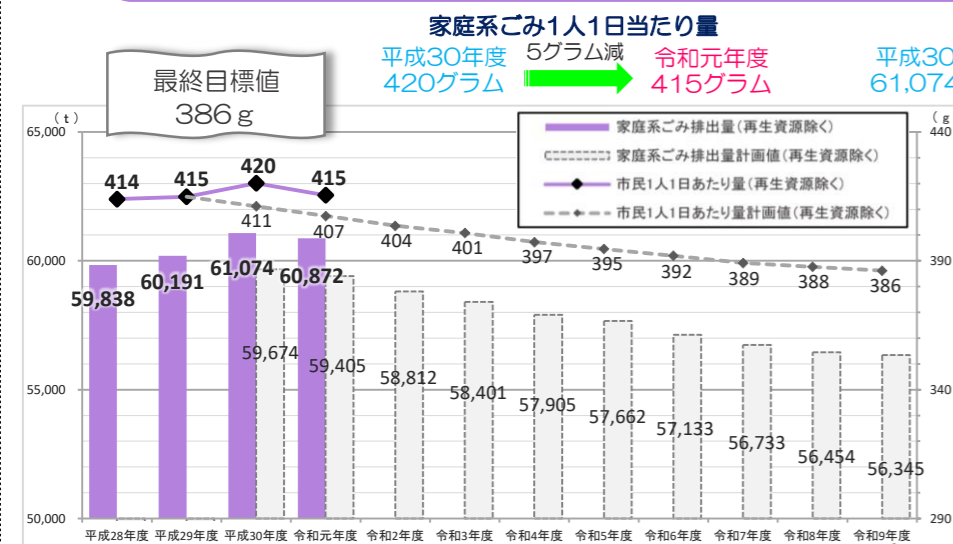
「ごみの焼却処理量」は、平成30年度(2018年度)と比較して約1,659トン減少しています。これは事業系ごみ量の減少が主な要因と推察されます。

審議会からの評価

平成30年度(2018年度)と比較すると大幅に減少していますが、当年度の目標値には達成しておらず、さらなる取組みが必要です。



家庭系ごみ1人1日当たり量・家庭系ごみ量(参考)



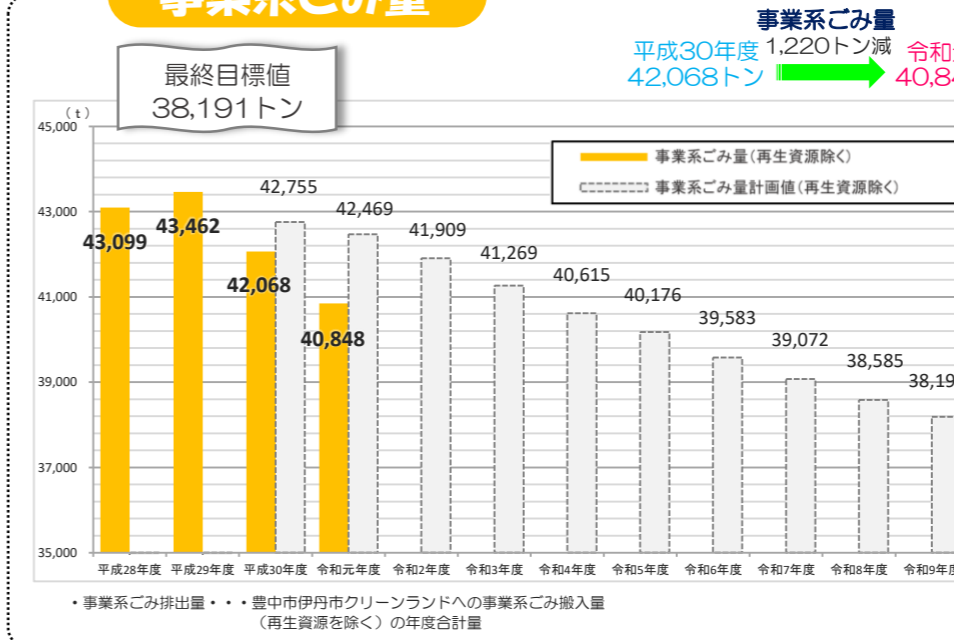
要因分析

「家庭系ごみ1人1日当たり量」及び「家庭系ごみ量」については、平成30年度(2018年度)と比較して減少していますが、目標値には達していません。これは、新型コロナウイルス感染拡大防止の外出自粛によるごみの増加や人口の推移が計画値より増加していることが主な要因と推察されます。

審議会からの評価

家庭系ごみ排出実態調査の結果から、可燃ごみ中には厨芥類・紙類の割合が高いことから、食品ロス削減に向けた取組みの推進及び適正な分別排出に向けた周知に努める必要があります。

事業系ごみ量



要因分析

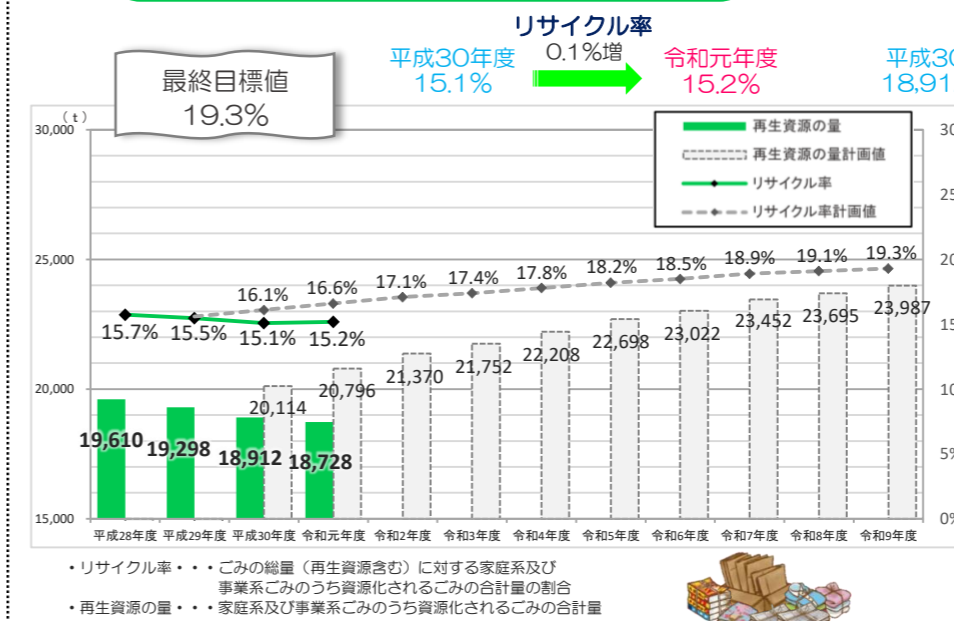
「事業系ごみ量」の減少については、事業者団体への事業系再生資源回収システムの拡充やごみ処理施設における搬入物検査を充実するなどの取組みが主な要因として推察されます。

審議会からの評価

事業系ごみ量については、減量目標の達成に向け、順調に減少していますが、ごみの減量につながる情報を発信するなど、さらなる取組みを進める必要があります。



リサイクル率・再生資源の量(参考)

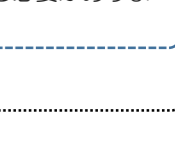


要因分析

「リサイクル率」については、横ばい傾向ですが、再生資源の量は減少しています。リサイクル率及び再生資源の量については、全国的に微減傾向です。要因のひとつとして、新聞、雑誌等の紙類が減少していることが考えられます。

審議会からの評価

家庭系ごみ排出実態調査の結果から、可燃ごみ・不燃ごみに含まれる雑紙やプラスチック製容器包装などの資源物について、適正に分別排出するよう周知に努める必要があります。



令和元年度(2019年度)の取組み

地域のイベントにおけるフードドライブの実施

食べ物大切に活動として、フードドライブの取組みが市民や地域団体が自主的に展開されることをめざし、令和元年度(2020年度)は、千の里新田南夏祭り、桜塚校区市民体育祭、野畑校区市民体育祭、庄内南公民館文化祭、新春上野フェスタ2020においてフードドライブを実施しました。



幼少期から始める美化推進活動の実施

豊中市内のこども園、幼稚園、保育園(所)の園児を対象に、幼少期から、まちの美化意識の向上をめざし、子ども環境美化学習事業の一環として美化清掃活動の取組みを支援することにより、きれいなまちを意識し、自らが清掃に関わることでできる力を身につけることを目的に、幼少期から始める美化清掃活動を実施しました。この事業では、清掃活動と「まちの美化」に関する屋内学習を行っています。令和元年度(2019年度)は、市内のこども園等8園で実施しました。



飲食店向け食品ロス削減ガイドブックの発行

飲食サービスを行う事業者、食べ残しや仕込み過ぎなどの要因ごとの対策や、実店舗で実施されている食品ロス対策の好事例などを掲載した内容の飲食店向け食品ロス削減ガイドブック『食品ロス削減のためのひと工夫飲食店でできること』を発行しました。



プラスチック削減に向けた取組み

令和元年(2019年)5月に策定された「プラスチック資源循環戦略」では、2030年までの目標として、ワンウェイ(使い捨て)プラスチックを累積25%排出抑制することなどを掲げています。本市においては、PRグッズとして作成した「紙製クリアファイル」を環境関連イベントや出前講座で配布した他、小学校で実施している環境学習では、海洋プラスチックの問題を学習内容に盛り込みました。また、市民との協働による取組みとして、北摂地域共通マイバックキャンペーンや美化推進重点地区での地域清掃に廃棄物減量等推進員に参加していただきました。

